

会長挨拶

2023年5月より本学会の会長に就任することになりました。力足らずかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。振り返れば学会に現在のような支部体制が整備されたのは今から15年近く前、丹治愛先生が会長をされていた頃に遡ります。このとき、会長の超人的なご努力のおかげで会計システムから役員を選出方法に至るまで新しい方式が導入されたわけですが、事務局の末端にいた私もこの移行がさまざまな生みの苦しみを伴う難作業であったことを記憶しています。ルーティンだけこなしていれば何とかあった平穏な時代とは異なりまさに疾風怒濤。台風の中、びしょ濡れになりながら山に登るような、骨の折れる日々でした。

学会のそうした組織作りの過程ではさまざまな意見も交錯し、英国史で言えばさながら17世紀の市民革命期のような熱気が渦巻き、「応仁の乱」や「カノッサの屈辱」に喩えられるような出来事もありました。当学会はすでに百年近くの歴史を有し、学会の中でも長老の域に足を踏み入れています。そんな老学会に遅ればせながら思春期が訪れたかと錯覚するような激動期でした。

そんな激動をへてようやく学会にも穏やかな時間が訪れたかと思いつつあった矢先、私たちが襲ったのがコロナ禍でした。これは学会の個別事情をはるかに越えた、世界規模の災害だったわけですが、琉球大学、早稲田大学、同志社

大学での対面の大会が相次いでオンラインに変更されるなど、当学会への影響も小さくないものでした。すべての会員が研究・教育活動で何らかの困難に直面されたことでしょう。

コロナ禍はまだ完全収束とはいきませんが、本年5月20日、21日に久しぶりに対面とオンラインの併用で開催された関東学院大学での全国大会は奥聡一郎開催校委員長をはじめ、開催校、関東支部の委員、中村仁紀事務局長を中心とした事務局スタッフの皆様の並々ならぬ努力のおかげで大きな成功を収めることができました。横浜スタジアムを一望の下におさめる懇親会会場からは、ついでに野球も観戦、とまではいかないまでも、熱心に試合を応援する観客の様子は実にくっきりと見え、まるで学会の新しい船出を祝福するかのよう感じられました。コロナ禍を通し学会でもオンライン化が進展するなど、これまでとは違う運営スタイルが定着しつつありますが、久しぶりの対面による大会は、あらためて会員が一堂に会し、言葉を交わすことの意味を私たちに知らしめるものでした。

学会では今後、ハイフレックスの活用など新しいスタイルを模索するとともに、会員の自由な研究活動を促進することを目指してハラスメントについてのガイドラインを制定し、より一層の発展を目指す所存です。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(阿部公彦)

理事会および評議員会議事録から

日本英文学会事務局を会議本部とするオンライン会議にて、2023年5月13日に理事会および評議員会が開催されました。主要な議案は以下の通りです。

1. 2022年度事業報告
2. 2022年度編集委員会活動報告
3. 2022年度大会準備委員会活動報告
4. 2022年度決算報告
5. 2023年度予算確認
6. 2024年度大会開催校の決定
7. 2025年度大会開催支部の確認
8. その他

*なお上記、事業報告、決算報告、予算、および2023年度事業計画は、詳細を学会ウェブサイト「情報公開」欄でご覧いただけるようになっています。

「8. その他」中の主な議案は以下の通りです。

- (1) 理事の交代について——2022年度に実施された各支部の役員選挙の結果を受け、次期理事候補として選出された以下の10名は、定款第21条第1項の定める事項に照らし、2023年3月の評議員会にて正式に新理事として承認されました。任期は2023年5月の理事会・評議員会から2025年5月の理事会・評議員会までの2年となります。

【北海道支部】 奥 聡(北海道大学)

【東北支部】 福士 航(東北学院大学)

【関東支部】 阿部 公彦(東京大学)
佐藤 和哉(日本女子大学)
武田 将明(東京大学)

【中部支部】 杉野 健太郎(信州大学)

【関西支部】 里内 克巳(大阪大学)
竹村 はるみ(立命館大学)

【中国四国支部】 太田 聡(山口大学)

【九州支部】 竹内 勝徳(鹿児島大学)

- (2) 代表理事・会長の選出について——定款第21条第2項の定めるところに従い、新理事会において代表理事・会長として阿部公彦理事(関東支部選出)が互選され、承認されました。また阿部会長の指名により、竹村はるみ理事(関西支部選出)が副会長に就任いたしました。任期は2023年5月13日の理事会から2025年5月理事会までの2年です。
- (3) 第95回全国大会 経費の追加拠出について(*追加審議事項)——第95回全国大会の開催校(関東学院大学)より、新設キャンパスの施設使用料の増額にともない、学会から追加での経費拠出(500,000円)の依頼がありました。検討の上、承認されました。
- (4) ハラスメント防止ガイドラインについて——3月理事会・評議員会での審議に引き続き、当ガイドラインの設置・運用に向けて基本方針、細部の修正、今後のスケジュール等について検討しました。

大会準備委員会からのお知らせ

◎委員の交代

本年7月1日をもって小林宜子、笹川渉、中村善雄、吉田幸治、大野英志の5氏が任期満了により退任しました。後任には、小宮真樹子(近畿大学)、川崎和基(日本大学)、大野美砂(東京海洋大学)、森下裕三(桃山学院大学)、福元広二(法政大学)の5氏が選出されました(任期は各委員とも3年)。委員長は松本朗氏、副委員長は小笠原亜衣氏です。

◎第95回大会の『大会 Proceedings』について

第78回大会から刊行がはじまった『大会 Proceedings』ですが、2019年度から冊子体での発行を廃止し、ウェブでのみ公開する電子版(PDF版)へと移行いたしました。第95回大会に関しましては、研究発表33件(招待発表8件を含む)中18件(55%)、シンポジウム発表53件中21件(40%)、総発表数86件中39件(45%)の論文をお寄せいただきました。なお、『大会 Proceedings』に掲載される論文は、大会発表の長めの要約という性格のもので、それを大幅に加筆して、別稿として『英文学研究』に投稿もしくは新人賞に応募することが認められています。

また、『大会 Proceedings』の電子版(PDF版)への移行に伴い『支部大会 Proceedings』も各支部ウェブサイトで公開される電子版に移行いたしました。詳細は各支部の担当者にお問い合わせください。

◎第95回大会の開催形態およびアンケートについて

第95回大会は、はじめてのハイフレックス形式での開催となりました。会員外の方を含め、2日間とも非常に多くの方にご参加いただきました。皆様には心より御礼申し上げます。5月20日から5月21日にかけてGoogle Formを用いて実施したアンケートには71件の回答があり、開催校のご尽力に感謝する声が多く寄せられました。

◎第96回大会の開催日・開催校等

時 2024年5月4日(土)、5日(日)
所 東北大学川内北キャンパス(宮城県仙台市)
開催校委員 大貫隆史(委員長)、大河内昌、

島越郎、中村太一

支部委員 福士航(委員長・東北学院大学)、石橋敬太郎(東北学院大学)、泉順子(東北学院大学)、井出達郎(東北学院大学)、相田明子(仙台青葉学院短期大学)

東北大学の先生方には大変なお仕事をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。また全国大会担当支部である東北支部の方々にも心より御礼申し上げます。大会準備委員会としても、できるかぎりのバックアップを行いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、第96回大会は、5月の大型連休中の開催となっております。これは、土曜授業などを伴うクォーター制、土曜日のTOEFL試験実施などにより、これ以外の開催日が、一年以上前の時点で、まったく見つからなかったことによるものです。会員の皆様にはご不便をおかけいたします。どうかご理解のほど、お願い申し上げます。また連休中は仙台市内のホテルも混雑が予想されるため、早めに宿泊先の確保を進めていただきますようお願い申し上げます。

◎第96回大会のシンポジウム企画の内定

第96回大会で行われるシンポジウムの企画が下記のように内定しました(敬称略。タイトルの変更の可能性あり)。第1～6部門は大会第1日(5月4日)、第7～12部門は第2日(同5日)にそれぞれ開催される予定です。

第1部門「長い18世紀におけるシェイクスピア崇拝」
司会・講師 佐々木和貴(秋田大学名誉教授)
講師 中野 春夫(学習院大学教授)
講師 岩田 美喜(立教大学教授)

講師 松田 幸子(高崎健康福祉大学准教授)

第2部門「[長いロマン主義]とモダニティ」

司会・講師 木谷 巖(帝京大学教授)

講師 関 良子(三重大学准教授)

講師 井上 和樹(東京大学助教)

講師 五十嵐奈央(宇都宮大学助教)

第3部門「ヴィクトリアン・フェティシズム ——文学・美術・ファッションのイン ターフェース」

司会・講師 田中 裕介(青山学院大学教授)

講師 松本 靖彦(東京理科大学教授)

講師 山口恵里子(筑波大学教授)

講師 輪湖 美帆(中央大学准教授)

第4部門「アフリカ文学の現在(仮)」

司会・講師 溝口 昭子(東京女子大学教授)

講師 栗飯原文子(法政大学教授)

講師 大池真知子(広島大学教授)

講師 小野田風子(大阪大学特任助教)

第5部門「西洋中世の聖書ナラティブ」

司会・講師 松田 隆美(慶應義塾大学名誉教授)

講師 井口 篤(慶應義塾大学准教授)

講師 駒田亜紀子(実践女子大学教授)

講師 杉山 ゆき(東京都立大学助教)

第6部門「ラベル理論をめぐって」

司会・講師 菅野 悟(東京理科大学准教授)

講師 星 浩司(慶應義塾大学教授)

講師 三好 暢博(旭川医科大学教授)

講師 堤 博一(都留文科大学講師)

第7部門「危機の時代と批評」

司会・講師 ハーン小路恭子(専修大学教授)

講師 岩川ありさ(早稲田大学准教授)

講師 木原 善彦(大阪大学教授)

講師 佐久間由梨(早稲田大学教授)

第8部門「Haiku as World Literature」

司会・講師 高橋 美帆(関西大学教授)

講師 Andrew Houwen(東京女子大学准教授)

講師 夏石 番矢(明治大学教授)

第9部門「病と障害のアメリカルネサンス (パート2)(仮)」

司会・討論 高尾 直知(中央大学教授)

講師 古屋 耕平(青山学院大学教授)

講師 小椋 道晃(明治学院大学専任講師)

講師 古井 義昭(立教大学教授)

講師 本岡亜沙子(広島経済大学准教授)

第10部門「名前と英語史」

司会・講師 堀田 隆一(慶應義塾大学教授)

講師 小河 舜(清泉女子大学非常勤講師)

講師 矢富 弘(熊本学園大学講師)

講師 五所 万実(目白大学専任講師)

第11部門「言語研究における「文脈」とはなに か——構文文法論的観点から」

司会・講師 木山 直毅(北九州市立大学准教授)

講師 三野 貴志(長崎純心大学講師)

講師 神原 一帆(立命館大学嘱託講師)

講師 徳永 和博(三重大学特任講師)

第12部門「教養としての語学/英語教育とは何 か」

司会・講師 深谷 素子(鶴見大学教授)

講師 鈴木 哲平(江戸川大学准教授)

講師 西原 貴之(広島大学准教授)

講師 佐藤 万知(京都大学准教授)

◎第96回大会招待発表

第96回大会の招待発表講師は次の各氏に内定しました(敬称略・50音順)。

石崎 保明(南山大学教授)
竹山 友子(関西学院大学教授)
中村 哲子(駒澤大学教授)
新居 明子(名古屋外国語大学准教授)
原田 範行(慶應義塾大学教授)
広瀬 佳司(ノートルダム清心女子大学名誉教授)
武藤 浩史(慶應義塾大学名誉教授)
吉川 朗子(神戸市外国語大学教授)

◎第96回大会の特別シンポジウム企画

第96回大会2日目(5月5日[日])の午後には、理事会企画の特別シンポジウムとして「英文学と出会う日本」が開催される予定です。詳細は来春発行の『第96回大会資料』および学会ホームページに掲載いたします。どうぞご期待ください。

◎第96回大会研究発表の募集

第96回全国大会の研究発表を募集しております。学会ホームページ(<https://www.elsj.org>)上でご確認のうえ、奮ってご応募ください。サイト上のフォーマットを利用して、ウェブから直接応募することが可能ですので、どうぞご利用ください。詳しくは、学会ホームページをご覧ください。応募の締め切りは11月1日(必着)です。

◎シンポジウムのアイデア募集について

シンポジウムのテーマに関する提言は随時受け付けておりますので、事務局(etaikai@elsj.org)までお寄せください。ただし、提案者は参加することはできませんのでご注意ください。寄せられたアイデアはデータベース化し、大

会準備委員がシンポジウムを企画立案する際の参考資料として活用します。

◎大会ワークショップについて

第86回大会より導入されたワークショップに応募が寄せられ、下記の企画が採択されました。

「頭韻をめぐる冒険——文学と語学の共同的アプローチ」

司会・講師 道木 一弘(愛知教育大学特別教授)
講師 桂山 康司(京都大学教授)
講師 小塚 良孝(愛知教育大学教授)

ワークショップの応募要領は学会ホームページ(<https://www.elsj.org>)に掲載しておりますので、奮ってご応募ください。第97回大会(2025年開催)ワークショップの応募締め切りは、2024年4月末日です。

編集委員会からのお知らせ

◎投稿状況

『英文学研究』は、和文号(12月刊行)、英文号(3月刊行)の年各1冊という刊行形態となっており、それに応じてそれぞれ投稿締切が設定されております。昨年9月1日締切の英文号には22本の投稿論文が寄せられました。また、本年4月1日締切の和文号には8本の投稿論文が寄せられました。

◎第46回新人賞応募状況

第46回新人賞論文の応募受付は、去る4月30日をもって締切となりました。応募論文総数は、5篇(英文学2篇、米文学2篇、英語学1篇)です。応募者の皆様には心より感謝申し上げます。

今年度、第一次選考を通過したのは1篇(英

文学)で、第二次選考において慎重な議論を重ねた結果、残念ながら新人賞は「該当論文なし」となりましたが、西田侑記氏(関西学院大学大学院研究員)の「『女王たちの仮面劇』における王妃の身体と王権の神話化」が佳作に選ばれました。佳作論文には賞金5万円が授与されます。全体および各分野の選評は『英文学研究』和文号第100巻に掲載されます。

◎優秀論文賞について

この賞は『英文学研究』(和文号、英文号)に掲載される論文の中から、特に優れた論文に授与されるものです。『英文学研究』第100巻において、渡邊明敏氏(金沢美術工芸大学非常勤講師)の「アジア旅行記としての *Utopia*——ノンフィクションによる Erasmus 的改革の擁護」が選ばれました。渡邊氏には賞金5万円が授与されます。

◎英文号掲載論文の英語シノプシスについて

和文号に掲載された日本語論文の英語のシノプシスは、同年度末に刊行される英文号の巻末に掲載されることになっています。しかしながら、英文号に掲載された英語論文については、これまでそのシノプシスは英文号に掲載されておりませんでした。英語論文についても、論文投稿時に英語のシノプシスをご提出いただいていることから、その扱いを改めて検討し、今年度の英文号(2024年3月刊行予定)より、英語論文のシノプシスも英文号内に掲載することになりました。

◎各種規程の変更について

このたび、論文投稿規程および新人賞規程の文言を一部修正することになりました。主な変更は下記の4点です。

1. カバーレターに記載すべき項目に、大学入学以降の学歴を追加します。
2. 日本語論文投稿規程(4)[3]および新人賞規程(5)[3]にて、註は、ワープロソフトの註作成機能を使わずに本文と同じ書式で作成し、原稿の末尾にまとめてつける旨を明示します。
3. 英語論文投稿規程(4)[2]および英語版新人賞規程5[2]において、書式の細部については *The MLA Handbook* などの標準的なスタイルマニュアルの最新版に従う旨をより明確にします。
4. 英語論文投稿規程および英語版新人賞規程における表記の揺れを統一します。

来年度以降、論文を投稿・応募される方は、ご注意ください。詳細は、本年12月刊行の和文号内の投稿規程、新人賞規程をご確認ください。

◎郵送による新人賞応募論文の受付廃止について

2024年度より郵送による新人賞応募論文の受付を廃止し、提出方法を電子メールでの送信のみとします(この変更にともない、第47回以降の新人賞規程の文言を改訂します)。なお、投稿論文については、これまでどおり郵送による提出も可能です。

事務局からのお願い・ご報告

◎支部大会資料統合版の刊行停止について

支部大会資料統合版は引き続きウェブ掲載のみとなります。支部大会の開催日程、プログラム等については、本部および各支部のウェブサイトをご確認ください。

◎今年度の大会について

2023年5月20日(土)・21日(日)に関東学院大学関内キャンパスにてハイフレックス方式にて実施されました。12のシンポジア、1つの特別シンポジアム、25の研究発表、8つの招待発表が行われました。

大会史上はじめてのハイフレックス形式での開催となりましたが、発表者、登壇者の皆様におかれましては事前の準備を含め、いつも以上のご負担をお掛けしたにもかかわらず、充実したご発表をしてくださいました。当日は会場でもオンラインでも、大変多くの会員の皆様にご参加くださり、研究発表・シンポジア、特別シンポジアム、いずれも盛況のうちに終わりました。シンポジア講師・研究発表者の皆様、および対面あるいはオンラインでご参加くださった皆様に、厚く御礼申し上げます。

一方、従来にない形での開催ということで、不慣れな点も多く、ご不便をおかけした点も、ご不満の点もあったかと存じます。今回の運営上の反省点やアンケートでいただいたご意見は今後活かしてまいりますので、さらなるご提言などありましたら、事務局(ejimu@elsj.org)までお寄せください。

また、新しい方式に対処するため準備段階からいつも以上に大変なご尽力をいただいた2023年度の大会準備委員会の皆様にも、この場を借りて御礼を申し上げます。加えて、新キャンパスの慣れない環境にもかかわらず、さまざまな要望にお応えいただき、最後まで立ちふさがった難関をすべてクリアしてくださった開催校・開催支部の委員の皆様にも、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

◎来年度の大会について

すでに学会ウェブサイトおよびメーリング

リストでもお知らせしておりますように、来年の第96回大会は2024年5月4日(土)・5日(日)の両日に、東北大学川内北キャンパスにおいて開催されることが決定いたしました。通常より早い時期の、ゴールデンウィーク中の開催となりますが、東北大学のよんどころないご事情により、他の日程を確保することが困難であったことをご理解いただければと存じます。厳しい条件にもかかわらず、並々ならぬご努力をいただき、開催校をお引き受けくださった東北大学の皆様に心より御礼申し上げます。

今回の大会は対面で開催されます。全国大会に関する最新情報は、学会ウェブサイト(<https://www.elsj.org/>)に掲載されますので、定期的にご確認くださいようお願いいたします。

なお、懇親会につきましても現在開催を慎重に検討しております。こちらも決定次第学会ウェブサイトにてお知らせいたします。

◎全国大会期間中における託児所の開設について

開催校のご尽力により、全国大会期間中に、託児業者に委託する形で会場内に託児所が開設される予定です。詳細や申し込み方法等は、決まり次第学会ウェブサイト上で告知いたします。

◎ハラスメント防止規定制定のためのワーキンググループおよび起草委員会の設立について

2022年6月24日に諮問を受け設置された「ハラスメント防止の望ましい在り方ワーキンググループ(ハラスメント防止規定制定のためのワーキンググループから改称)」は、8月31日付で最終案を提出、それを受け2022年9月に設立されたハラスメント防止ガイドライン起草委員会(ハラスメント規定起草委員会から改称)は5

回の会議を経て、ガイドライン草案を理事会に報告しました。3月および5月の理事会でガイドライン案は議論され、その後起草委員会と理事及び評議員との協議会を行い、現在制定に向けての準備を継続しています。

◎メーリングリストによる学会情報の配信について

現在、学会活動に関する情報は随時メーリングリストを通じて会員の皆様に一斉配信しています。メールアドレスのご登録がお済みでない方や変更のある方は、学会ウェブサイトのお問い合わせページ (<https://www.elsj.org/inquiry.html>) より手続きをお願いいたします。なお、学会活動に関する情報はこれまで通り学会ウェブサイトにも掲載いたします。

◎会費納入と刊行物発送について

日本英文学会の2023年度会費は、例年通り、一般会員8,000円(本部会費7,000円+支部会費1,000円、ただし複数支部に加入の場合は1支部ごとに1,000円追加)、学生会員5,000円(本部会費4,000円+支部会費は一般会員に同じ)、協賛会員10,000円です。退会届が出されない限り、会費の納入が滞っても、2年間引き続き刊行物をお送りいたします。2年度分の会費振込用紙が同封されている方々は、会費滞納が2年目になっています。今年度中に2年度分の会費の納入がなかった場合は、2024年3月末をもって会員資格を失うこととなります。資格を失ったのちも、未納分の会費については支払い義務があり、その分をお支払いいただかない限り再入会できませんので、ご注意ください。

会費の納入状況が不確かな場合には、メールで事務局 (ejimu2@elsj.org) までお問い合わせください。重複して会費を支払われますと、払い

戻しなどに余分な手数料がかかってしまいますのでご注意ください。

会費の納入忘れを避けるためにも、「郵便局自動払込みによる会費引き落とし」のご利用を強くお勧めしております。ゆうちょ銀行に口座をお持ちでしたら、事務局からお送りする書類に記入して、ご返送いただくだけで簡単に利用できます。領収書も、ご請求があれば学会より発行いたします。利用ご希望の方は、メールで事務局 (ejimu2@elsj.org) までご連絡ください。

なお、66歳以上の会員を対象とした終身会員制度を設けております。詳細につきましては、学会ウェブサイト (<https://www.elsj.org/>) の「入会案内」から「終身会員制度ご案内」をご覧ください。また、メールで事務局 (ejimu2@elsj.org) までお尋ねください。

◎会員著書案内について

2012年4月より、会員の皆様から事務局宛てにご著書を献本いただいた場合、学会ウェブサイトに著書紹介を掲載できるようにいたしております。著書は会員独自の研究成果に限り、訳書等は対象外とさせていただきます。掲載期間は、掲載開始日から2年間です。また、著書案内に掲載された著書については、『英文学研究』編集委員会において書評対象の候補として検討させていただきます。

掲載をご希望の方は、以下の情報を事務局 (ejimu@elsj.org) までメールで、WORDの添付ファイルにてお寄せください。もし可能でしたら、こちらのテンプレート (<https://www.elsj.org/books/format.html>) の通りをお願いいたします。

1. 著書のタイトル、出版社、出版年
2. 著書の内容の梗概1,200字程度
3. 目次

この会員著書案内欄には、2023年7月末の時点で33冊が紹介されております。ぜひご覧ください。

◎海外研究者招聘後援事業について

日本英文学会では、2011年6月1日より、日本における英文学研究の国際化促進のために、海外研究者招聘後援事業を実施しています。詳細は学会ウェブサイト (<https://www.elsj.org/>) の「情報公開」から「海外研究者招聘後援事業規程」をご覧ください。同規程に該当する企画をお持ちの団体による応募を歓迎いたします。どうぞふるってご応募くださいますようお願いいたします。応募する団体は申請書類を事務局 (ejimu@elsj.org)宛てメールにてお送りください。

◎次回のNewsletterについて

次回のNewsletterは、2024年3月中旬刊行予定の『第96回大会資料』の巻末に掲載される予定です。それまでの間に、大会開催形態を含めてお知らせすべき情報は、随時、学会ウェブサイトやメーリングリストを通じてお知らせしますので、定期的にご確認くださいようお願いいたします。

◎その他

本年5月末をもって、前任の中村仁紀事務局長、侘美真理会計担当補佐、奥畑豊大会準備担当書記が退任されました。それぞれのご所属大学での研究教育業務が多忙を極めるなか、英文学会の運営にも献身的にご尽力いただきましたことに心より御礼申し上げます。とりわけ、第95回大会をはじめハイフレックス方式で開催したことに代表されるような、さまざまな新しい試みや状況に果敢に挑戦され、常に精力的に、どんなときにも心折れることなく励まれて

いた姿が思い起こされます。前任の皆様の遺産を大事に守りつつ、新しい試みにも挑戦していくことをここにお誓いしたいと存じます。

この交代に先立って、4月より新たに、猪熊恵子(事務局長補佐)、津田正(会計担当補佐)、酒井祐輔(大会準備担当書記)の3名が事務局に入り、昨年度の事務局長補佐から事務局長に異動となりました田村斉敏、昨年度より引き続き編集担当補佐を担当する馬淵恵里、オンライン担当書記を担当する永嶋友とともに、6名の体制で本年度の事務局運営に携わることになりました。いずれも任期は来年5月末までとなります。事務職員には従来の有能な2名に加え、新たに北烏山編集室(代表 樋口真理)と法人契約を結び、業務委託をしております。阿部公彦会長のもと、力を合わせて努めていきたいと考えております。至らぬ点多々あることかと懸念しておりますが、会員の皆様におかれましては、ご指導・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

日本英文学会事務局

田村斉敏・猪熊恵子・津田正・永嶋友・
馬淵恵里・酒井祐輔